

教えて！！漢方&鍼灸「鍼灸受診の手引き」「漢方とコロナ」

附属東洋医学研究所
 助教 大谷かほり
 鍼灸事務 曾我佐知子

教えて！！漢方&鍼灸

～ 鍼灸受診の手引き～
 ～ 漢方とコロナ～

～鍼灸受診の手引き～

担当： 鍼灸事務 曾我佐知子

昨年7月の本学敷地内への移転後より、学内の方々から鍼灸臨床施設にはさまざまな問い合わせがございます。今回、日頃よくある質問を取り上げ、Q&A式の「鍼灸受診の手引き」を作成いたしました。患者さんへのご案内、職員の皆様が受診する際のご参考にさせていただけたらと思っております。

Q 鍼灸の治療料金はどのくらいですか。

A 図のように、「体験治療」「一般治療」「小児治療」「セルフケア」などのメニューがあり、すべて自費診療となっております。一般治療の場合、初診は9,900円（税込）、再診は6,600円（税込）となります。所要時間は、初診で60～80分、再診で40分～60分ほどです。

鍼灸治療のメニューと料金

体験	体験治療 (20分～30分) 鍼灸に対する恐怖心がある方、ご自身の症状に効果があるのか知りたい方などを対象とした体験コースです。次回初診料は免除となります。	3,300円	
	一般	一般治療 (40～60分:初診時+20分) さまざまな症状や体質などを考慮したトータル治療を行います。全身的に体調を整えます。	初診 9,900円 初診料:3,300円 治療費:6,600円
小児	小児治療 (10～20分:初診時+20分) 小学生以下の方が対象となります。主に、皮膚をなでたり、こすったりする心地よい刺激を行います。夜泣き、ひきつけ、夜尿症、体質改善に有効です。	初診 5,500円 初診料:2,200円 治療費:3,300円	再診 3,300円
セルフケア	きゅう指導 (20分～30分) さまざまな症状や体質などを考慮した治療を行います。火傷の痕が残るお灸と残らないお灸があり、希望に応じて自宅での治療の方法を指導します。	初診 4,400円 初診料:1,100円 治療費:3,300円	再診 3,300円
	円皮鍼指導 (20分～30分) 部分的な症状に対する治療を行います。シールと鍼が一体になったものです。痛み、こり、筋肉疲労、婦人科の症状、不安などに効果的です。	初診 4,400円 初診料:1,100円 治療費:3,300円	再診 3,300円

※本学職員が鍼灸治療を受ける場合は上記料金の50%割引となります。学生、医療練士、研修医の方々等にも割引があります。予約の際に、本学関係者であることをお伝えください。

Q 保険はききますか。

A 当施設では保険の取扱いはしておりません。予めご了承ください。

Q 本学の職員や学生が治療を受けることができますか。

A できます。すべてのメニューで職員は50%割引となります。割引率に違いはありますが、学生、医療練士、研修医の方々等にも割引がございます。予約の際、本学関係者であることをお伝えください。日頃の精神的・肉体的ストレスの緩和等に、是非、鍼灸を取り入れてみてください。

Q 医師からの紹介状は必要ですか。

A 医師からの紹介状の必要はございません。南館1階に直接来所いただくか、電話で予約をお取りいただきます。受診後、患者さんご本人の同意を取った上で、担当鍼灸師より主治医の先生に報告書を提出するようにしております。

Q 鍼灸治療は怖くないですか。

A 使用する鍼は髪の毛ほどの太さで、ほぼ苦痛なく治療を行うことができます。灸は火傷の痕の残らない心地よい熱さのものを使用しています。どうしても心配な方には、十分な説明をした上で、短時間で軽めの刺激を行う「体験治療」3,300円（税込）をお勧めしています。

Q 鍼灸に副作用はありますか。

A 鍼灸刺激に対する反応には個人差があり、治療後に一時的に倦怠感などを生じることがあります。鍼灸の刺激量は状況に応じて調節することができますので、担当鍼灸師と相談しながら治療を受けていただくと安心です。

Q 感染の心配はないですか。

A 使い捨ての鍼を使用し、手指の消毒などを徹底しています。鍼はすべてベッドサイドで準備から廃棄までを行うようにしています。換気については、天井裏と床下に大型の換気装置を設置しており、壁で仕切られたベッドごとの換気が可能となっています。



Q 事前に準備するものはありますか。

A お支払いは現金のみとなります。クレジットカードは使えませんので、予めご了承ください。着替えの準備は必要ございません。肌を露出しやすいよう薄着になっていただきますが、タオルを掛けて対応しますのでご安心ください。肘から先・膝から先が露出できる服装でお越しいただくと助かります。

Q 女性の鍼灸師はいますか。

A 各曜日に関連学会や職能団体で研鑽を積んでいる女性の鍼灸師が勤務しております。女性の鍼灸師をご希望の場合は予約の際にお申し出ください。男性の鍼灸師も各曜日に勤務しております。

Q どのくらいの頻度で通えばよいですか。

A 状況によって異なりますが、週1回のペースで5回くらい続けてみることをお勧めしています。改善傾向がみられ、症状が落ち着いてきましたら、徐々に治療間隔を空けて様子を見ていきます。

その他、ご不明な点がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

鍼灸臨床施設直通電話：03-6709-9026 鍼灸臨床施設メールアドレス：hari-yoyaku.bd@twmu.ac.jp



～漢方とコロナ～

担当： 助教 大谷かほり



2003年、まだ経験の浅い研修医時代、上の先生の代理でSARS疑いの患者さんを診察する役目を仰せつかりました。「90%以上違うから大丈夫、でも念のために防御はしっかりね」と言われ、初めてのN95マスクにフルPPEで、おっかなびっくり診察したものです（結局SARSではなかったのですが）。後に漢方がSARSや新型インフルエンザに著効したと聞いても、まだ漢方を学んでいなかった時には「なんか怪しい、話を盛っているんじゃないの？」くらいにしか思っていませんでした。今、中国の新型コロナウイルス感染症の診療ガイドラインには、漢方薬が治療の1つとして詳しく記載されています。過去の経験が生きていることは間違いありません。今の私にはさもありなんと感じる内容

ですが、やはり漢方から遠い位置にいると「怪しい、エビデンスがない」とみる人もいます。ですが、今や日本感染症学会のホームページにも、漢方薬による治療についての特別寄稿や、漢方治療例の報告、中国での治療データが載っています。

検査も十分できず診断がつかない中、軽症者や疑い患者は待機を続けなければいけません。実はこんな時こそ、漢方薬の出番なのです。漢方は病原体の存在も知らず検査もできない時代から、感染症を症状や体質で分類し治療してきた歴史があります。漢方のバイブルともいえる「傷寒論」は、急性感染症の治療について書かれた後漢時代の書物です。著者である張仲景の一族は200人以上いましたが、10年経たないうちに2/3が死に、その7割は感染症によるものだったそうです。多くの縁者を若死から救えなかった無念さから、この書物を書き上げたと言われています。日本ではスペイン風邪流行の際、傷寒論にある葛根湯、小柴胡湯、柴葛解肌湯、大青竜湯、柴陷湯、竹茹温胆湯などが著効したという記録が残っています。これらは急性感染症に用いる処方、症状と体質が合えば新型コロナにも使えます。



漢方の強みはそれだけでなく、患者さんの本来弱い部分、不調になりやすい部分を整えることで病気になりにくくする治療でもあり、朝鮮人参や黄耆を含む補中益気湯や十全大補湯など、免疫機能を高め過剰な炎症を抑制する処方があり、予防としても使えることです。

更には、寒気などのごく初期の症状から使え、症状の変化にも処方を変えていくことで対応できること、倦怠感や食欲不振などはっきりしない症状、「Stay home」によるイライラや不安、意欲減退といった心の不調、心理的要因を背景にした身体症状にも使えることです。

赤ちゃんからお年寄りまで使える漢方。多くの人に見直してもらい、心身の健康を取り戻してもらえたらこんなにうれしいことはありません。流行が少し落ち着いた時こそ、ご自分の体質と症状のパターンを専門家に評価してもらい、再度の有事に備えておかれてはいかがでしょうか。

